

自己評価及び外部評価結果

〔事業所概要(事業所記入)〕

事業所番号	0170501845		
法人名	有限会社 ユアスタッフ		
事業所名	グループホームもいわの里 石山館 うれし荘		
所在地	札幌市南区石山3条7丁目3番12号		
自己評価作成日	平成24年7月27日	評価結果市町村受理日	平成24年10月9日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

〔評価機関概要(評価機関記入)〕

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年9月12日

〔事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)〕

<p>ケアプランの重視 ケアマネージャーの監修のもと、全職員がアセスメントからモニタリング、再アセスメントに至る循環機能を理解してケアプランに深く関わっている。</p> <p>アクティビティの推進 重度化の変化に対応し、フロアの現状に合った根拠に基づいたアクティビティメニューを揃え「豊かな暮らし」の獲得を目指している。</p> <p>自施設研修 毎月テーマを決め、個人研修・演習を充実させて、事業所のスキルアップモチベーションの向上を目指している。</p>
--

<p>札幌市郊外の閑静な住宅地に建つ、2階建て2ユニットの事業所で、広い庭には花壇や菜園があり、四季の移り変わりを身近に楽しむことができる住環境にある。緑に囲まれたテラスには、椅子やテーブルが置かれ、暖かい日のお茶会や昼食等に利用されている。事業所内は随所に工夫が見られ、介護者や利用者の動線を考慮し、各居室はリビングを囲む配置で、ゆったりとした造りになっている。近隣住民とは買物や散歩時に気楽に挨拶を交わし、町内会主催の行事に参加し、また地域住民は事業所主催の行事や避難訓練に参加する等、良好な関係を築いている。職員の資質向上にも力を入れ、内外の研修に参加し自己研鑽する事で、介護福祉士や介護支援専門員等の資格を取得している。管理者及び職員は、利用者の尊厳を重視し、利用者を中心とした温かいケアを実践しており、家族の信頼も厚い。さらに利用者の経験や知識が発揮できるように、近隣散策や遠出の外出・行事の準備や参加を支援している。また身体機能に合わせたレクリエーションや運動を日課とし、事所内でも楽しく過ごせるよう配慮している。地域密着型として、利用者本位の温かい事業所である。</p>
--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に理念の具現化とケアへの反映を協議・確認し、職員間の意識付けを行い、良質のサービスにつなげていけるように努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を、リビングや職員休憩室に掲示している。定例会議や全体会議で話し合い、ケアサービスに反映されているか確認している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域の自然や街並み・人々とのつながりを感じて暮らせるよう、共存を目指し地域交流を積極的に行っている。地域のお祭り、町内会の清掃作業や町内会の総会などの参加、及び避難訓練の協力や農作物の差し入れなどでつながりが広がっている。	町内会に加入しており、地域の夏祭りや町内清掃等の行事に参加している。事業所主催の手打ちうどん試食会や避難訓練に地域住民が参加し、積極的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に暮らす高齢者の方々や家族に向け、ケアを通じて学び得た認知症の方の想いや支援の方法を伝えていけるよう努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各フロアの生活の報告をし、毎回、テーマに沿って、家族・地域の方・包括支援センター等、様々な立場の意見や要望を求め、利用者が更に安心して暮らせるサービスの質の向上につなげている。	定期的で開催している運営推進会議には、利用者の状況・地域との連携・ひやりハットや、防災計画等について話し合われており、消防署員の参加もある。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・地区の管理者連絡会、介護支援専門員研修会等での市町村担当者との情報交換で、連携を密にしながら事業所の実際やあり方を見直す機会を得ている。	グループホーム管理者連絡会議などに参加して情報を共有し、行政方針の理解に努めており、常に利用者本意のケアサービスに取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に全職員を対象とした「身体拘束廃止委員会」を開催し、「本人の自由な行動を期限する」「切迫性」「非代替性」「一時性」の定義の具現化と拘束の弊害を学び、事業所全体で正しく理解し尊厳を支えるケアを実践している。	日中玄関は施錠せず、鍵をかけない暮らしを実践している。身体拘束廃止委員会があり、拘束のない自由な暮らしを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームの倫理規定に基づいて遵守し、高齢者虐待防止法等の勉強会を開催している。ホーム内において「絶対に起こさない・見逃さない」を徹底し、防止している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の研修会等に参加し、職員に周知している。青年後見制度を活用している方を通して学びを得る機会があり、有効に活用できる支援をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書・契約書を分かりやすく提示すると共に、不安や疑問点等には十分な説明を行い、理解・納得・同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、利用者・家族が意見や要望を表すことができるように努め、事業所の質の向上につなげている。また苦情等の窓口を設け、事業所で共有化しサービスの向上につなげている。	家族とのコミュニケーションを大切に、来訪時の会話の中から意見要望を聞き取り、家族の声を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や面談などで日々のコミュニケーションの場面で、運営に関わる話題作りを心がけ、日常的に意見・提案を汲み上げて事業所の向上につなげている。	月1度の全体会議の他、人事考課制度や自己向上計画をもとに、代表者や管理者と話し合いの機会が多くある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいをもって就業できるように、人事考課基準が個々の努力や実績が給与水準アップに反映されている。また、職員のストレスにならない職場環境作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を対象に、段階に応じた外部研修を受講する機会を確保している。毎月テーマを決め、委員会や個人が主導となる勉強会・研修・演習を自施設内で実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉法人の定期的に主催する研修会に、事業所全体で協力・参加し、ネットワーク作りを積極的に行っている。また、事業所の取り組みである「タクティルケアとふれあい」では、見学者や実習者を受け入れ交流と推進に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活上の困りごと、様々な不安や要望を本人から伝えやすいように、傾聴や受容的姿勢を心がけ、潜在的な感情の理解や信頼関係の構築につなげている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	愁訴・要望、傾聴や受容的姿勢で家族本人に対する想いを受け止め、理解する事を心がけている。本人と家族の心の距離が縮まるような支援に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談から利用までの過程で、十分な情報収集を行い、現状や背景など視点を拡大したアセスメントを行い、潜在化している事柄を含め、本人らしい支援の必要性を見極めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の経験や知恵から学びを得る姿勢で、ホーム理念である「高齢者を人生の先輩として敬う」を実践し、認め合い支えあう関係作りを大切にしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者の良質な関係作りが継続されるように、ホーム来訪時にはケアの一員として、職員は家族の一員としての協同意識を持った場面作りを心がけている。面会が少ない方には、定期的に電話や手紙などで近況を伝えている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・友人等の来訪を心から歓迎し、関係の継続を支援している。希望者には、可能な限り懐かしき場所の訪問を援助する体制がある。	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係が継続できる様に支援しており、家族と共に墓参りや初詣に行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	和やかに協働できるアクティビティの時間を多く設け、その場に合った利用者同士の関わりを見極め、孤独感を味わうことのない対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、希望に応じ、可能な情報提供やサポートなどバックアップに努め、これまで培ってきた関係を大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人をより深く理解する努力と言葉にできない思いや希望を察し、受け止め、利用者本意を最優先している。	個々の利用者が今どのように感じ、何をしたいか、何を求めているのかを理解し、その人らしい暮らしを支え本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族への細部に渡る聴き取りやこれまでのサービス利用の情報提供等により、なじみの暮らしの把握に努め、安心に繋がられるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アクティビティやコミュニケーションを通し、日々の暮らしぶりを広い視点から総合的に現状把握し、適切な援助につなげていけるよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネの監修のもと、職員全員が個々の担当者のケアプランの原案作りに関わっている。本人・家族の意向に添って現状にあった適切なケアが受けられるようなサービス計画をチームで作成している。	定期的な見直しは3カ月毎に行い、体調の変化や本人や家族の要望を取り入れ随時見直しを行っている。医師、看護師とは連絡を密にし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の詳細な様子が共有できる、叙述体の個別記録となっている。サービスの実施にはチェック項目があり、状況と達成度を把握し的確なモニタリングができ、サービスの見直しが有効になっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各々の資格・得意分野・係活動等を活かし、身体的・精神的なサポートや家族の意向に添い、多様なニーズに応えられるような支援を心がけている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営会議や近隣の方々まちづくりセンターを通し、ボランティアの紹介の窓口をお願いしたり、老人福祉センターで近隣の高齢者の方々と共に食事の時間を共有したりと、地域の社会資源を活用して豊かな時間を過ごせるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週でかかりつけ医による在宅診療で、医師や看護師に気軽に相談できる関係にある。日常の身体観察や変化を報告し、早期発見やスムーズな診療につなげている。	利用者は古くからのかかりつけ医を受診しており、通院の支援をしている。また病状に合わせた医療機関を受診できるように、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に4回、在宅診療や訪問看護との医療連携体制により、利用者を良く知る看護師と健康管理について相談できる関係が作られている。事前の情報提供により、スムーズな診察が行われている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心した入院生活が送れるように、介護添書には本人に添った認知症の対応を情報提供している。早期退院に向け、情報交換を密にし医療との連携に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、日常的に本人・家族の希望や意向を伺っている。事業所の機能を知っていただいた上で、事業所と家族にできることを本人本位で考え話し合い、前向きにチームで取り組んでいる。	医療連携体制の下、『重度化に伴う意思確認書』を作成している。入居時から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを説明している。終末期の看取り経験がある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から利用者の急変の可能性を把握し、個別に対策をたてている。応急手当や心肺蘇生の自施設内研修を定期的に行い、職員感の連携を強化している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と日常的にシミュレーション・事例検討等、冷静な対応ができるように各フロアで行っている。また地域の方の協力が得られるように、避難訓練や推進会議で消防署の啓蒙活動に参加してもらっている。	消防署の協力のもと、利用者や地域住民と共に避難訓練を実施している。万が一の災害時には家族と連絡が付くように災害伝言ダイヤルを伝えている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム理念にある基本姿勢をケアに反映させ、尊厳を支えプライバシーを守る対応を重視している。	尊厳を大切にし、プライドを傷つける事がないよう配慮しながら支援している。重要書類は、鍵のかかる棚で適切に管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを引き出しやすいように、時には意図的に自己決定の場面を引き出すように働きかけをし、ゆっくり・誠実に分かりやすく説明し、納得してから自己決定できるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルを尊重し、心地良く毎日が過ごせるように、希望に添った生活支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選んだ洋服、食後の口紅など、日常的に自分らしいお洒落をする支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「作る楽しみ」「食べる喜び」を感じてもらえるよう、利用者にもメニュー作成に関わってもらったり、利用者の力に応じて料理に関わる場面作りを日常的に実施している。	利用者の意見や、嗜好を取り入れた献立を作成しており、食欲が出るように見た目にも美しく盛り付けている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康や嗜好を良く知る栄養士がたてたメニューが食卓を飾り、健康的で豊かな食生活になる支援が行われている。また、その時の気分や食事等に合った飲み物を提供し、水分量が確保できるように努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアが定着し、口臭の軽減や歯茎の健康が維持されている。自立できていない方には、残渣や食渣、磨き残しがないようさりげなく支援し口腔内の清潔保持をサポートしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握で、失敗の場面が減少するように努めている。重度化になっても便座に座って快適な排泄ができるよう、またできる限り綿の下着を履き、最小限のパッドやリハビリパンツの使用に取り組んでいる。	排泄チェックを行ないながら、個々の排泄パターンを把握し自立支援を行っている。トイレ上部には収納棚があり、使いやすい工夫をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による身体的影響・精神的影響を職員が理解し、排泄パターンの把握や繊維質の多い献立作りや腸の働きが促進される運動に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調をみながら、希望の時間を決めてもらい、心地良く入浴できるように支援している。また、安心できる入浴方法の研究やゆったりとコミュニケーションをとりながら楽しめる入浴ができるように心がけている。	決められた入浴日の他、個々の希望に合わせていつでも入浴できるように準備している。羞恥心や尊厳に配慮し、同性介助を基本としている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体調に応じて、バランスの良い休息ができるよう支援している。夕暮れ時に行うタクティールケアの実施や職員の静かな振舞いやトーンダウンを心がけ、心静かに眠れる支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々、個々の処方薬の目的・副作用・用法・用量を確認し、理解に努めている。新処方薬の服用後の観察を強化し、変化の確認を心がけ、医療との連携に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個々の楽しみや役割、昔とった杵柄等、力が発揮できるアクティビティメニューを設定し、張り合いや気晴らし自信に繋がられるような支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、利用者の希望を把握できるように心がけ、計画的に行きたいところへ行けるような支援を行っている。また、「行くまでの楽しみ」を大切に、コミュニケーションにつなげて外出できる喜びを感じてもらっている。	心身の活性化につながるよう、日常的に近隣の公園や遊歩道の散策に出掛けている。また花見等の行事外出も積極的にし、地域での生活が体感できる支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物を購入する喜びや適正な金額の買い物ができるよう、本人の力に応じた品物選びや支払いの見守りや支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話での通信支援をサービス内容に組み入れ、家族や大切な方と関係性が継続できるような支援をしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	活動時間帯や休憩時間帯など、場面に合わせた照明や声のトーンの配慮をしている。また行事に添った壁飾りで、季節感を感じてもらっている。	共用空間であるリビングの壁には、利用者の手芸作品や行事写真が飾られている。採光・臭気・温湿度・換気に注意を払い、清潔で居心地のよい共有空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室と同じ作りの談話室で、居間の雰囲気を感じながら、気の合う利用者同士が語り合ったり、スタッフとマンツーマンでの寄り添いしたりできるスペースがある。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	休息をしながらも居間の雰囲気が伝わり、寂しい思いや孤独を感じたりする事がない居間を囲んだ居室の配置となっている。また、居室は、なじみの物や使い慣れた物を手に届く場所に置いたり、居心地良く過ごせる支援をしている。	居室には自宅で使い慣れた家具や調度品などを持ち込み、馴染みの品々に囲まれ安心して、寛いで過ごせるよう配慮・工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	小さな段差をなくし、玄関などのあがりかまちには、はっきりと段差をつけて、注意力を以って慎重な移動ができるようにしている。専用玄関には、無理なく靴を履くことのできる高さのベンチを壁に設置している。		